

東筑摩塩尻教育会長 様

東筑摩郡生坂村立生坂小学校

原 由紀子

令和6年度 県外視察報告書

視察先所在地 山形県西置賜郡小国町叶水826

視察機関名 基督教独立学園高校・会津白虎隊資料館

○ 視察テーマ

新しい学校教育の在り方——豊かな自然の中で生きる力をはぐくむ——

○ 視察報告

一、はじめに

岐阜、山梨、長野の三県の公立小中、養護学校、世田谷和光学園、きのくに学園南アルプス子どもの村小中学校の教諭経験から、新しい教育改革の波を感じている。子どもの自主性を重んじること。覚える教育から考える教育へ。学校が楽しい→毎日が楽しい。そんな教育ができるための引き出しを増やしたいと思い、各地の特色ある学校、教育方法についての研修を重ねている。今回の研修では、知人の勧めにより、東北の山深い中にある基督教独立学園高校、古くから行われてきたことの中に、新しいものを見つけた気がした。

二、基督教独立学園高校で五つの教育方針にふれる

(1)「神を畏れる人間」を育てる

当校にはルールや決まりといったものはないが、入学時に校長と交わす「契約の書」に立って、どこまでそのない生活ができるか格闘する。初代校長、鈴木すけよし氏は、無協会の流れを引く内村鑑三氏の弟子。キリスト教徒の生徒は約1/4であるが、真理かキリスト教かと言えば、真理探究をとる。

創立76年目。定員79人のところ今年度は59人在学している。

(2)「天然から学ぶ人間」を育てる

自然の中での暮らしをしたい、友達を作り、いろんな人と対話したい、受験勉強じゃなく学びたい生徒が受験をする。その際に三つの条件がある。

○スマホがない ○テレビがない ○インターネット

生徒たちは、スマホを捨てるか捨てないかの2択を迫られる。これらのものに依存をしていた自分と離れたいという気持ちを持って入学する生徒が多い。

(3)「労働する人間」を育てる

全寮制。洗濯は手で行う。前時代的な生活の中で、不便さの中で、受験準備教育ではなく、学問(真理探究)の基本を学び、人生の土台作りとしての高校生活を送ることができるように、この条件を大切にしている。

二日目の朝五時、畜舎の前に集合。十二月の早朝は寒い。まだ暗い中、トラックに乗って牛の飼料となる草刈りに行く者、部活動や体育的活動の中には、園芸と畜産の二つがある。前日は、畜産部で牛（ジャージー牛、昼食に出たとれたての濃いミルクや、ヨーグルトはとともおいしかった。）小屋の糞の掃除や、直径七〇cmほどの大きな石臼を三人がかりでひいて、豚の飼料づくりをした。確かに最初は、園芸や酪農などの「労働」は効率、合理化を求めるものではなく、身体を動かして働くことで、労働そのものを楽しみ、生きている実感を得るためのものという考え方が、体験してみてわかった。

（４）「自ら学ぶ人間」を育てる

選択制の授業や農作業の他に、コーラス パイプオルガン、ハンドベル、生物、星、聖書を学ぶなど、特徴的な活動がある。実験室で、カメムシコーラ実験をする生徒、製パン部で天然酵母を自然の中で発見し、パンづくりをする生徒。礼拝を重んじ、クリスマスに向けて讃美歌の混成四部合唱の練習を自主的に行っていた。素晴らしい歌唱力を持つ生徒、教師顔負けの素晴らしい指導力を持つ生徒が、教室の雰囲気盛り上げていた。校内には目を見はるほど才能にあふれた展示作品が展示されていた。

（５）「平和を創り出す人間」を育てる

韓国に姉妹校があり、沖縄平和の旅と韓国平和の旅（ナヌムの家など）を有志の参加で毎年交互に一週間ほど行っている。

また、自分自身が抱えている生きづらさを抱えている人の家に訪問して賛美歌を歌い、異質なもの排除せず、互いの人格を尊重して、共に生きることを学ぶという活動を行っている。

三、会津白虎隊資料館

山形に隣接する福島県会津若松では、幕末維新における戊辰戦争の一環である会津戦争に際して、16～17歳くらいの武家男子を集めた部隊「白虎隊」の自刃の地であるという飯森山と本陣、資料館の見学をした。会津の格言「ならぬことはならぬ」を思いながらこの地を見学した。

四、おわりに

温故知新、古い時代から行われてきた教育の中に、今求められている新しいものがあると感じた。小中学校で、私たちが目指す「面白い」「能動的な学び」を体験してきた子どもたちにとって、受験の為ではなく、親や先生から引かれたレールの上を走るのではなく、自分は何にしたいのかをみつける。「生きる」ための、社会に出る前の学習ができる場所という点では、先に述べた私の二つの前任校（私学）、自分の教室経営とも考え方が一致している、高等教育学校として、期待できる学校の一つであると感じた。